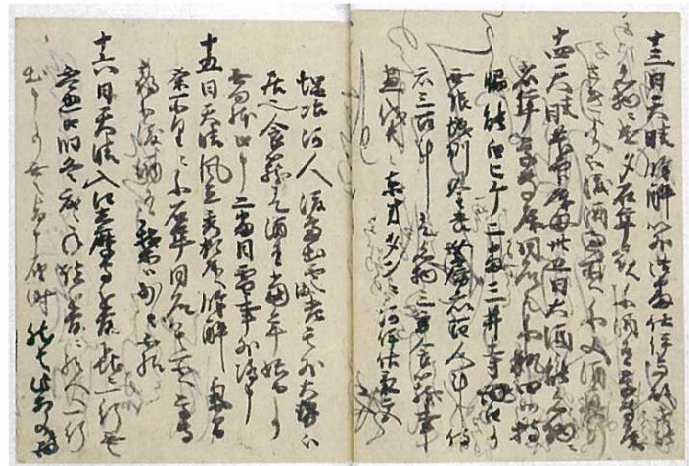




# 二条宴乗記



### ▶【にじょうえんじょうき】

二条宴乗自筆

3冊 補遺4冊

永禄12(1569)-元亀2(1571)年

縦24.5cm 横21cm



## ◆日記から浮かび上がる 松永久秀の実像

現代社会において、私的に、あるいは業務上の必要から、日記をつけている方も多いことでしょう。

日記は、筆者の見聞きした事象が刻々と具体的に(時には感想を含めて)記されるため、実に雄弁な歴史資料として広く利用されています。

『二条宴乗記』は、奈良の興福寺一乗院門跡に仕えた二条宴乗が記した日記です。時は戦国時代の真っ只中。興福寺・奈良町の動向はもちろんのこと、大和国や畿内近国における出来事等、動乱の日々が詳細に記されています。

掲出の元亀二年(一五七

二)二月十四日条では、大和国等で活躍した戦国大名の松永久秀が、息子の久通や重臣らとともに薪能を揃って見物したことが記されています。

薪能は、興福寺南大門で執り行われた神事猿楽です。その始まりは、平安時代の中頃と推定される歴史ある行事ですが、戦乱の影響のためか、永禄十二年(一五六九)より中断していました。

当時、將軍足利義昭・織田信長から大和国支配を認められていた松永久秀としては、自らが大和国の支配者であることを示したい、という思惑もあったのでし

よう。薪能は、この年に彼によって復興されました。

この日、実際に薪能を見物した二条宴乗は、「面白き事、限りなし」と記しています。短い文章ではありますが、薪能の復興を非常に喜んでいた様子がうかがえます。

松永久秀と言えば、神仏を恐れない稀代の悪人というイメージがありますが、近年では江戸時代に創作されたそのイメージの見直しが進んでいます。

本日記の記事からは、政治的意図があったものの、荒廃した奈良町の文化復興に寄与した松永久秀像が浮かび上がってきます。

(天理図書館 澤井廣次)

### <天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

○2月の休館日: 6日・13日・15日~25日・27日・28日

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)

※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。